

# 玉野市立大崎小学校

児童数 97名 ・ 学級数 7学級 ・ 教職員数 16名（平成27年1月30日現在）

## ○取組実践のキーワード

基礎的な知識・技能の習得、補充学習、家庭学習の習慣化

## ○標題（研究主題）

確かな学力を身に付けた子どもを育む

## ○取組を始めた経緯

全国学力学習状況調査の結果から、大崎小学校の児童の課題をまとめてみると

- ・「漢字の読み・書き」「四則計算」のより確実な定着。
  - ・文章の内容を読み取る力。
  - ・物事を比較したり関係付けたり、筋道を立てて考えたりする能力。
  - ・自分で考え、わけを説明したり記述したりする力。
  - ・家庭での勉強時間。
- 以上5点が課題となる。

## ○取組の実施体制

全職員で、授業改善、指導力向上、朝学習や放課後学習の充実、家庭学習の在り方などについて研修を行う。

## ○学力向上に向けた具体的な取組

### ① 授業改善

- ・話し合い活動を充実させ、自分の考えを発表したり友達の意見を聞いたりして、それぞれの考えを関係付けたりまとめたりする能力を育成する。
- ・書いてある内容を読み取ったり、自分の考えを書いたりする学習を意図的に行うことで、目的に応じて的確に読む力や書く力をつけるようにする。
- ・問題解決型の学習を意図的に行うことで思考力や実践力を培うようにする。
- ・視覚的な教材教具や板書の工夫等、分かりやすい授業に努める。

### ② 指導力向上のための研修

- ・国語科の「話す・聞く」、「読む」、「書く」について研究を深め、他の教科にも広げる。
- ・研究授業において外部講師の指導を受け、指導力を高める。
- ・特別支援教育に関する研修を深め、個に応じた指導・支援の工夫や授業におけるユニバーサルデザイン化を図る。
- ・研究会等に参加した職員は伝達研修を行い、最新の情報を伝達する。
- ・岡山型学習指導のスタンダードを活用し、指導力の向上を図る。

### ③ 朝学習や放課後学習の充実

- ・朝学習（漢字・計算・作文・読書）で何をするか確認する。
- ・放課後学習として、月に1・2回、木曜日に放課後サンサン教室を実施する。また、全学年週1回、帰りの会の時間にサンチャレタイムを実施する。

### ④ 家庭学習のあり方

- ・「おおさきっ子親子家庭学習のすすめ」を配付し、家庭学習の在り方について保護者や子どもに周知する。
- ・「生活振り返りカード」などを活用して、テレビやゲーム・インターネットをする時間、家庭学習の時間などを反省し、家庭と連携して生活習慣の改善を図るようにする。

## ○現在までの取組の成果と課題

### 1 成果

#### ① 授業改善

- ・児童に自分の考えを持たせてから、ペア学習やグループ学習を行うことで、学び合いの充実を図っている。
- ・文を読み取ったり、自分の考えを書いたりする学習や見通しをもって問題を解決していく問題解決型の学習を意図的・計画的に行うことで、子どもに、思考力や実践力を身に付けさせることを目標に、授業を行うよう教職員が努力している。
- ・教材提示装置やデジタル教科書を効果的に使用する教職員が増えている。

#### ② 指導力向上のための研修

- ・外部講師を招いて、国語の研究授業を行った。教材研究の仕方や読みの学習の仕方、ペア学習・グループ学習の効果的な活用について理解を深めることができた。また、ユニバーサルデザインを取り入れた授業についても、講師を招いて研修し、学校全体で、個に応じた分かりやすい授業の工夫に努めている。
- ・児童がめあてをつかみ、自分の考えを持って学び合いに参加し、まとめやふりかえりを行う流れを大切にした授業を行うようになっている。

#### ③ 朝学習や放課後学習の充実

- ・職員朝礼をやめ、終礼とすることで、担任指導の下に、朝学習（漢字・計算・作文・読書）を行うことが可能となった。この時間に、ドリル学習や定期的なテストを継続することで、「漢字の読み・書き」「四則計算」の力を向上させることができている。
- ・朝の読書で読む本はできるだけ物語文にし、読解力の向上につながるようになっている。また、週に1回短作文を書くことで、文を書くことに抵抗感をなくすようになっている。
- ・月に1・2回、水曜日に放課後サンサン教室を実施している。サンサン教室は、課題プリントを充実させることで、発展的な学習も補充的な学習もできるようになっている。また、学校支援ボランティア9名の方が参加してくださり、きめ細かい指導ができている。
- ・全学年週1回、帰りの会の時間にサンチャレタイムを実施している。「たまのっ子プリント」や「おかやまっ子プリント」を活用し、担任と管理職で指導している。

#### ④ 家庭学習の在り方

- ・懇談や学校便り、学年通信等で、家庭学習の在り方を保護者や児童に十分説明したり、休み前の宿題の出し方を工夫したりすることで、家庭学習の習慣化を図っている。
- ・中学校区で「身につけてほしい三つのポイント」というリーフレットを作成配付し、中学校区の小中が連携して学習習慣づくりや生活習慣づくりに取り組んでいる。また、今年度から中学校の試験週間に合わせて、中学校区でノーメディアデーの実施もしている。

## 2 課題

- ・「漢字の読み・書き」「四則計算」については、繰り返し学習させることで確実な定着を図る必要がある。
- ・国語の指導法について引き続き研修し、文章の内容を読み取る力を育てたい。
- ・応用問題や記述を必要とする問題を苦手とする児童が依然として多い。
- ・宿題を忘れずしてきている児童は97%と高いが、自主学習等自ら進んで学習する習慣が身に付いていない児童が多い。

### ○取組の継続・発展の要因

- ・授業改善や研修への教職員の主体的な取組を促進する手立て。
- ・小中連携による学習習慣づくりや生活習慣づくりの継続。

### ○管理職・中核教員等のアクション

- ・サンチャレタイムには管理職が参加して担任と一緒に指導。
- ・中学校区でのノーメディアデーの実施の開始。
- ・表現力向上のための児童朝会での「全校スピーチ」の実施。

### ○その他の資料・写真等



< 研究授業でのペア学習 >



< サンサン教室でボランティアの方と学習 >